

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	南牧村
------	-----

No.	事業項目	事業名
	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 5,000,000 円 (うち支援金: 700,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

南牧村内では民有林が多く、カラマツが多くを占めている。カラマツの価格低迷などにより林業への関心が薄れているため、手が施されていない森林が多く残っている。そのため、道路沿線に木が鬱蒼としており、鹿等の飛び出し事故が多発している。

(2) 本事業の目的

緩衝帯整備を行い、鹿等が道路に飛び出しにくい環境づくりを行う。

事業内容

(1) 実施場所

南牧村 大字 海ノ口 県道梓山海ノ口線

(2) 対象者

民有林所有者

(3) 実施方法

道路沿線の木の伐採を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

村道海尻芦平線 沿線 (L=590m)

県道梓山海ノ口線 沿線 (L=1,800m)

村道野辺山平沢線 沿線 (L=1,270m)

②令和 3 年度計画

県道梓山海ノ口線 伐採延長 L=700m



事業効果

(1) 事業実施による効果

道路沿線の緩衝帯整備を行う事により、運転手からは見通しがよく、しかも緩衝帯があることにより、鹿等の野生鳥獣が飛び出しにくくなる。また、所有者が独自で更新（伐採・植栽）をすることにもつながり、別路線も日当たりがよくなった。

(2) 継続性

樹木を伐採すれば、後年は比較的軽微な草刈り作業のみで、継続的に緩衝帯を維持することができる。

(3) 普及性

緩衝帯を整備することで、地域住民が運転しやすく鳥獣等との事故を抑制できる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

道路沿線の伐採によって、とても見通しのいい道路となった。観光客も通る主要幹線道路であるので、費用対効果はとしても高いものであった。

(2) 課題

森林所有者に対し現場立ち合いの場を設けるため、通知書の発送や電話での連絡を試みた。しかし、1名の森林所有者と連絡を取ることができず、本事業の対象外とする箇所ができてしまった。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

今年度と同様に別路線の緩衝帯整備を行い、見通しのいい道路としていく。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない